〔大正十二年十二月二十日第三種郵便物認可〕 昭和八年九月六日 磐城新聞 〔水曜日〕 第三千八百二十一號 〔一〕

夕刊 磐城新聞
九月五日發行
定價 一部金五錢 一ヶ月金六拾五錢(郵稅拾五錢)
發行所 磐城新聞社 電話五六四番
〔日曜祭日翌日休刊〕

性的誘惑と其防止策

男子に對する女の誘惑

中島湖洲生

五

男子は進取的創造的であり、他面粗暴であるに拘らず、婦人は保守退嬰的であり細心である。斯如く婦人の心理は男子のそれと一般的に異り、且つ其特質を有するものであるが此冬の穴より出て次第に暖かになるにつれて婦人の特質的生理現象にも影響され一層男子のそれと異るものである。それで學者の曰く『一定生物に於けるが如く一定の性慾興奮期が男子よりも一層婦人に出て來るのであらうと』又曰く『太陽の光線中の紫外線が急に增加してそれが生殖線に作用するのが刺戟となつて內分泌の作用が高まる爲め性慾は興奮する』と云ふてゐるが其原因の正否如何は別として暖になるにつれて婦人の性的興奮の高まる事は一致したことで例へば此の四五月頃から夏にかけて姙娠が如何に多いかは統計の示す事實である。此の性慾興奮の爲、其心理に甚だしき影響を及ぼして、ために其理性は失はれ、感情的である女性はなほ一層感情的になり理性なく、前後の分別思慮なく只興奮にまかせて行動し易いのである。ここに誘惑の魔の手は其心からなる微笑をもらしつゝ待つのである婦人の此季節に於る心理は以上の如くで寒氣のためにこはばつてゐた、其表情は尙一層活潑となり自由となる、又服裝も自然華美になり、より挑撥的、刺戟的である、斯の如き心理と態度である故に誘惑の魔は安々と飛び込むこととなる、婦人は魔の淵の上を興奮しつゝ亂舞してゐるやうなものである、それに日中は長くなるし從て出勝となり一層人との接觸を多くし更に益々興奮を高め、遂には取り返へしのつかぬ事態を惹き起すのである。春夏の頃海水浴場に又は溫泉場に如何に多くの罪惡と痴態とが演ぜられつゝあるか、餘りにも多くの忌はしき噂が世につたはつて居るではないか

幌馬車

秋間小路

○新開の濟街道を幌馬車は一人の客の吾を乘せ行く
○宿つぎの幌馬車はゆるく走り居り街道狹く蟬鳴きあへる
○むくむくと入道雲の相寄りて今日の暑さの太陽を包みたり
○日かげれば秋風たちぬ出揃はぬ門田の稻も少しそよぎて
○新らしきソフトカラーのひつたりと身もひきしまる出勤の前

潮聲硯靜抄帳

大野雨山

草花實景
日盛りのがげかさねたり秋桔梗
白玉や籬越しの空の晴まさり
みしか夜の露をこぼせる芭蕉哉
清宮支峯

花炎
戸をくるや朝風蚊帳を吹きまくる
陽はてりのぬけぬ匂や花炎
朝々や鴉のにごす岩清水
岡本機柳

帝都防空演習豫行の夜
夜かけてわつか涼しき街かな
同實演當夜
夏ゝき思ひに宵の街をゆく

新月

高橋亘

さゝ籔かげの

有史以來奧羽第一の忠臣

『結城宗廣大勤王論』成る

諸根氏の非常時論迹

本紙今春既報せる如く本縣西白河郡の出生した大忠臣結城宗廣及び其の二子親光に就いて、諸根氏は此の研究に志して爾來數年、考證博引、記述明解なる史傳を完成し、遂に本月五日を以て出版を見るに至つた。蓋し非常時日本の今日斯る刊行は最も有意義で、即ち混沌たる現下の思想界に投ずる一大經典たるは言を俟たない。又結城父子の如きは彼の北畠親房楠木正成が子と同功なるにかゝはらず世人が餘り知らぬところであつたが、今回諸根氏の努力に依つて天下に周ねく表忠されるに至つたのは、單り本縣の誇りたるばかりでなく、古來大忠臣の少ない東北全体の矜りとも謂えよう。故に畏くも 明治大帝に於かせられては、宗廣、親光の大節を夙に叡感し、則ち彼等を別格官幣社結城神社として官祭せしめ、正二位を贈り給ふた。然るに該の結城神社は、近世に及んで伊勢津藩主藤堂氏が宗廣の勤王を崇拜する餘り、城下に奉祀した關係上故人の史實に由緣りない彼の地に今鎭座するのは聊か本縣の遺憾とする所であるので西白河郡でも目下之が創建に運動中である。

拈華微笑

◇絕好の甞祭日和嬉しい測候所の誤診
◇チヤンガラに見惚れて子を見失ふ。文字通り盆槍な母
◇胎動を勧る赤い信女迄、老、若男、女、踊り見物オンパレード
◇平町にも美術の秋。近く恆例X畫展
◇昨夜の風忽として新凉を齎らす愈々本格的秋
○……○

のこり雪
頰白二三羽
寒さうね
日暮の山に
逃げました
櫟林の梢に
新月出たよ

せきれい
川べり
日向は
ぬくいよ
畦から畦へと
飛ぶ
せきれい
魚つる人
もうかへるよ
日もかげつて。

社會の今日

9月6日 △幕府銅の海外密賣を禁ず(安政六)△日露講和事件に付帝都騷擾す(明治三八)

○
股ぐらでコツコツ刻む石地藏 白鳳
精勤退かず一念天に通ず 參同 契註

講談 剣火無情 (111)

津屋競人作 菅野祐作畫

嗚若狹街道(一)

侏儒の伊太郎は己が不具なるに耻もせず、松子の此邊りには稀なる美しく氣高き姿を一目見るや氣も魂も添はぬ許りに熱烈なる戀を寄せることゝなつた

物言ひ交す機會の少いので頻りに焦つてゐた所へ先方から辭を懸られその上茶菓を供されたのには全く夢のやうにボーツとして了つた、

そして誇り顏に、問はるゝ儘に井伊家陣中の模樣を語つた

『御陣屋の中は三百人からの廚があるので、彦根の御同勢の外に此敦賀の御領主酒井飛彈守樣のお手勢が何十人といふもの御番をなすつてゞす、隣りの陣所は筑前福岡の松平美濃守樣、同じく秋月の黑田甲斐守樣、相州小田原の大久保加賀守樣が列んでゞす、何しろ船着の土地なり、諸方の浪士が入込みますので、御用心が嚴しくなり今此敦賀は大繁昌でございます』

ベラ／＼と饒舌り立てる時子と松子は田丸稻之右衞門、藤田小四郎、武田耕雲齋の消息を知らうとしたが、素より愚しい伊太郎には少しも判らなかつた。けれども伊太郎は誰が見ても滿足の人間でないから陣中に入込んでも怪しい人物とは中々思はれない、それを時子は敏くも察して

『誰にも言つては可けませんよ。今度の陣の中に此お孃樣の阿父樣が大層お世話になつたお出入り先武田耕雲齋樣といふお方、もうお一人は田丸稻之右衞門樣、此お二人のお在の所を見定めて手紙を一つ窃と渡して下さいませんか、お願ひでございます。此願ひを叶へて下すつたら什麽お禮でも致しますから！』

伊太郎は惚れ切つた婦人の頼み否む筈もなく二つ返辭で

『へイ／＼雜作もない事でございます。イ、エ極內分で、屹とお渡し致します。陣中の怖い軍さ人も私には心を許してゐますから前に居所を聞いて突止めて置いてから窃とお渡し申しますお受合申しました』

『そんなら宛名は書かずに置きます、若しもの事があつて、露顯したらお前さんにも迷惑が懸りませうから無名にして置きます。手蹟で誰といふ事は判るのですから……何うぞお願ひ申しますよ』

伊太郎は此の願ひを叶へてやつたら又自分の戀も成就するものと獨り思ひ定めて了つた、そして其日網代行李を納める際二通を手渡しする事を約して歸つた

跡に時子とは喜んだほんにこんな

『好い手づるがあらうとは思ひませんでした。田丸樣もお手紙を御覧になつたら定めしお喜びの事でござりませう』

『それに耕雲齋先生が、其後何ういふ江戸表の容子であるといふ事も屹とお返辭下さるでありませう、早くあの男の便りが聞きたいものでござりますな』

二女はひたすら伊太郎の消息を待つてゐた。待つ身よりも待たるゝ身の伊太郎は道れ功名して二女を喜ばせ、それをカサに己が思ひを遂げんものと危險を冒して武田、田丸の謹愼の場へ入込んだ

敦賀の兵も彦根の兵も高の知れた侏儒の町人として氣にも止めず何處まで足を入れても別に叱りもしなかつた

其日夕暮に納め物を濟ませ、猶後の注文を聞いて伊太郎はチョコ／＼と我家へ歸つた。歸るとも商賣も手に附かず直參の二女の住居へやつて來た

松子も時子も、それと見るや右と左から御苦勞樣でしたねえ

『首尾は何うでしたね』

勿体づけて伊太郎は莫迦ながらも手柄顏になり

『さア廚にした大事の囚人奧深い所に謹愼とかいふ自分で人は近づけませんのを私がヤツトの事番卒にお世辭を言つて胡摩を摺つて陣中見物をさせて貰ひましてね、怖い中を進んで到頭田丸稻之右工門や、武田耕雲齋樣のお側へ近寄りました！』

『してお返辭がありましたか』

『お二人とも御壯健でございましたか』

第一校遠足會

平第一校では來る廿六日左の如く遠足運動を行ふ

一年―內郷權現山、二年―同村一之矢神社、三年―平窪村二本松、四年―大室山、五年―沼之內、六年―草野村最勝院、高等科―閼伽井嶽水石山

○○○○第一校授業延長 平第一校では暑中により三十五分授業であつたが來る廿一日より始業八時授業四十五分にすると

勞銀

平町役場調査今月一日現在の職工人夫勞銀左の如く昨年同期に比し殆ど變りない

女人夫四○錢 並人夫六○ 土方人夫八○ 鳶人夫、大工、左官、鐵工職ペイント職、木挽職各一、○○ 瓦職一、二○ 鍛治職一、三○ 石工一、四五 煉瓦職一、八○

○○○○○靑州町長出仙 二十二日正午から仙台市公會堂で催される多門師團長送別會に出席する

舊七月十七日 水曜 新九月六日 乙亥 大安 平 壁宿

諸判定應需 東京市本鄕區湯島四丁目五番地 高島易斷總本部 神誠館

▲一白の人 心を一つにして業務に協力すれば平穩なり▲二黑の人 念願成かざれど後日を樂しみに怠る可らず▲三碧の人 意見の衝突を避け我意をつらぬかざれば吉なり▲四綠の人 大事を思ひ立たざれば過ちなし病難は注意▲五黃の人 苦心のかひなく思ふ半ばにも至らぬ衰運日▲六白の人 かん天に雨を得たる如し氣分開けて喜を增す▲七赤の人 人和を失はぬ樣務むれば追々と吉に向ふ日▲八白の人 心浮立ち輕忽となりて後悔ある日愼重肝要▲九紫の人 巧言に誘はれて人のえ食となるべき危險日

御愛乘下さい シボレーに！ そは先驅者なり

生花教授 池ノ坊流 生花を懇切丁寧に御敎授いたします、お遊びがてら御出で下さい。 平町四丁目和泉屋旅館 須藤まつの

小兒科・內科 特ニ乳幼兒ノ健康相談ニ應ズ。 滯留隨意 平町。ねずみ坂 渡邊醫院 電話一六一番

難波醫院 內科 小兒科 醫學博士 難波睦 平町新川端櫻堤 電五〇二 看護婦募集 (…入院隨時…)

生徒募集 奧樣方の爲め持に隨意科が設られてあります。毎日定期に通學の出來ない方々の爲の回數券制度…… 磐城女子洋裁專門學院 入學毎月初日 (此の際入學者は隨時入學を許可す) ミシン無料貸與(材料貸與の方法あり) 平町白銀町十五番地 (詳細…學則郵券二錢)

「家庭の裁縫はミシンの時代」 シンガーミシン見切特價品整理販賣 シンガーミシン七圓月賦販賣の元祖 シンガーミシン家庭の不要品高價買入 シンガーミシン部分品一式修繕中古品 安心して買へるシンガーミシンの賣店 ミシン會社の賣品は責任保證附 平町田町大通り シンガーミシン會社 石城双葉販賣部

石城酒造組合主催 唎酒會 優等入選 辰の口本店 平窪村(電話平二八五番) 販賣店 平町二丁目(電五四六番)

新製品發賣!!! ジヤバ モツカ グアテマラ コーヒー通待望のコーヒー來る……！ 本場コーヒー三種配合挽立 1/4封カン入三五錢 1/2封カン入七十錢 味覺滿點

香味本位の本場銘茶を召上りませ…… 平町三丁目 電三九六番 大勝園

屋根材の大王(日の出太陽印)便利瓦 耐久力優ニ二十ヶ年以上 壹坪葺上八十錢內外 日本建築紙工株式會社 磐城代理店

銘木 ベニヤ板 天井板 建具材 內外木材 建築材料ノ御用命ハ是非當店へ。 織田材木商店 平町字紺屋町四〇 電話四六〇番

外科 全般 內科 小兒科 女科 醫學博士 渡部義夫 醫 渡部きい 平町田町大通り(電話二七七) 渡部外科 (入院應需)

夜間診療 胃腸性病 專門 內科 胃腸病科 花柳病科 性病科 皮膚病科 松村胃腸性病科醫院 (平町南町電一〇七番)

昨夜忽然新涼は來た
風聲に領かる「今朝の秋」
絶好の天氣に惠まれたお盆

時々驟性の雨至るべし。なる測候所の天候打診は嬉しくも外れて昨四日の舊盆十五日は冷涼の風に秋氣飽迄淸爽、書き入れ日を跳躍する若い男女は絶好のコンヂションに惠まれて怒濤の様な鉦太皷に後から〳〵押し寄せるヂャンガラ隊と呼應して今年初めての盆氣分は街の中央を縦斷して紅蓮の熖渦卷く松焚きの美觀と共に玆に渾然その最高潮を見せて全町に遍滿した。十一時過ぎ遽然として踊り子の衣袂を飜す強い風が出て少量の雨を交へ『風雨強かるべし全部警戒を要す』なる豫報が適中したかの片鱗を見せた。此頃から田町、驛前、南町と櫓から櫓へ、ジャンガラからジャンガラへ、見飽かぬ獵奇行進に疲れた人達は漸く家路を辿るが多く十二時――一時――さしも賑つた盆の夜の大掛りなジャズの坩堝はいつか常の夜の靜謐に歸するのであつた。夜來の風に忽焉として秋の天地に入つて今日しも朗來淸空一碧、新秋の風颯々として此上ない盆の十六日である。街から街へ！、文字通り苹の子を洗ふやうに老も若きも犇めき合ふ賑ひは恐らく夜あけ方迄續けられる事であらう。

エログロ盆の夜の波紋
闇に蠢く怪しの影
特別警官隊の(!)もの二つ

昨夜本町、新川端、南町、鎌田、舊城山の手、公園方面と六班に分れて出動した平署の特別警官隊中公園張り込み隊のエモノ二つ

A

鄕闇の暗がりに蹲つて喃々私語の男女。別段怪しからぬ振る舞ひに出る容子も無いが長時間に亘つて蜜の囁きを交してゐる自烈つたさに潮時を見て誰何の巨彈を食らはすとゴム毬の様に飛び上つた二人『あ、怪しい者では、あ、ありません……』男は四倉町に歸省中の某専門學校生徒(二)相手は仲間町の娘(一九)性的因果關係の恐るべき所以を說諭して放還

B

園内の木立を縫つてピカリピカリ懷中電燈を照らしては何者かを捜し廻る模様此奴適切り昨今流行の僞刑事と睨んだ一隊有無を云はせず頸すじを捕へると一と溜りも無く縮み上つて告白すらく

四倉の脊屋で二十五歲。驛前の知己へ自轉車を預けて涼みに來ました。云々

何物かに有りつかんとせるらしき形跡顯著なるものあるので之亦その不心得を諭して放還

知己の家で 踊り子御難
グロ趣味に祟らる

昨深更平署へ『醉漢闖入、檢束願ふ』の電話と相前後して『親にも叩かれぬアタマを毆られました』と飛び込んで來た鬘裝の踊り子二人段々双方を調べて見ると踊りに疲れたくだんの二人が豫て知り合ひの前記某宅を訪ねると深更ではあるし餘りにグロな相手の變裝に怪漢入來とばかりポカポカやつたものと判明大笑ひ

平驛交番前珍景 着替(!)に人の山

昨四日午後八時頃櫓を圍んで踊りのクライマックスに達してゐる平驛前の交番で四五名の若い女性が盛んに着物を着かへてゐる異様な光景に野次馬がいつぱい集つたが鈴木部長の説明でそれは四倉から乗り遅れやうとした途中が子を思ふ親心から次列車で屆けて寄越した晴れ着をふだん着と替へてる處とわかり一同ダア

暴風浴岸を荒す
棧橋流失其他小被害多數

昨報―房總沖合から北漸移動した低氣壓は沖を通過した爲陸地には被害なかつたに反し海上は大荒れで郡下各濱では其筋の警報に豫め船舶を繋留して用心中江名町中之作漁港修築棧橋は激浪の爲め約二十間押し流され損害約三百圓の被害あつた外輕微な被害が各方面にあるらしく目下平署で調査中である

親を見失ふ
人渦に迷ひ子三人

昨四日午後十時頃平町二町目地内道路に泣き叫んで居る迷子あるを同町馬目英三郎氏が平署に連れ來たが右は禰宜町五古物商大竹喜作氏三女千子さん(五)と判明親許へ引渡したが折柄の人出で外に迷子が二名あつた

第十回郡下聯合青年團 體育大會役員
小檜山會長以下部署決定

第十回郡下聯合青年團體育大會は既報の如く愈々來る十日磐中グラウンドに於て行ふが當日の役員は左の如く決定した

(會長)小檜山久作(總務)西山直三郎、大河原茂平、大森勇、三森虎雄、松本忠人(庶務會計)松本忠人外二人(受付)紺野勝治外二人(來賓係)齊藤榮一、會我正治、鈴木佐忠、菊地正一、鈴木佐四郎、柴田德二(整場)山崎宣吉外一人(救護)大森勇(陸上競技係)審判長―下山田尚方、指揮―芝崎新吉、決勝審判―大橋秀冬外五人、跳投審判―永島磯惣太外三人、出發合圖―田子泰作、計時係―渡邊恒夫外三人、監察係―櫻井榮次外四人、召集―瓜田壽門馬猛外、記錄―新家芳美、熊谷保高外、通告―上川恒平、吉田治藏外(劍道係)審判長―庄司政之外係員二人(柔道係)審判長―橋本芳太郎外係員二人(相撲係)審判長―青天目源一郎外係員一人

磐中對入山競泳大會
十七日入山プールの爭覇

磐中對入山の競泳大會は來る十七日入山プールに於て行はれるが磐中軍の選手左の如し

(自由型)長野、木村、先崎、北野、庄司、水野、澁谷、志賀、佐藤、草野、酒井、中津(背泳)佐藤、水野、澁谷、草野(平泳)志賀、國井、赤塚、新妻

投槍
投書歡迎

日本刀の切味。。。。

◇過般東京を中心とせる一大防空演習を開催したるを見て、如何に國際非常時を國民に強く印象を與へ日本の威信を國外に驚異の反響を發火させたるかを我等日本國民として誠に愉快に感ずる次第である

◇就中常に日本の形勢を推理する米國民にとつて日本と戰爭しても勝算の見込なしと心境の變化を來たし、卽ち何等かの名目で日本戰爭の解消とまでに、近き將來に米國民の悲鳴を發せさせる樣な芝居を想像する、それに亦

◇露國の最近の動きは明治三十七、八年の敵、日本を目指して復讐戰を誘發せんとするの準備着々、露滿國境へ第二の陸の旅順港を建設せんとする狀態にあるが、然し是れ又日本の威光に恐れて復讐の解消と方向轉換するだらう

◇が然し我れ等は絕對に人種的白色黃色の差別がある以上は永遠の平和を持續する可能性を存在すると考へられない。所謂我れ等日本國民の恥辱である米國排日法案の撤廢せざる限りその汚を着せた罪惡に對する報酬として米國民の心臟に日本刀の切れ味を拜觀させなければ大和魂の虫が先祖に對し申譯ない。斯の如き理由のもとに

◇我等磐城青年は政治は政治家に責任を負せ、農業に、工業に、商業に、國家の資源を開發して、以つて未來の大國難に備へ、熱烈な愛國の精神を涵養し益々國威の發揚を助長せんことを望む

(利平生)

街路樹。。。。僕も贊成

◇昨本紙月曜論壇子の『街路樹植栽希望』僕も大贊成。手近な實例を擧げると白銀町の舊農銀橫に在る楚々たる一本の柳が田町通りに殘つて居る何本かの銀杏が如何に索莫單調な街頭に親しみ易い情緒を添へてる事か

◇財政的に多事な平町として蓋し急施を要する曰く何、曰く彼にが少くない事と思ふ、併し乍ら快き街の戰慄兩側に。竝べる柳雨に濡れ行くなんて氣分を街路樹によつて味ふ事なども考へて見る必要が無いではあるまい

(二丁目地元負擔完納生)

來年からは 櫓に擴聲器
後藤平驛長の腹案

始めて平町の盆踊りを見た後藤驛長は櫓の音頭が全踊り子に徹底せぬのを遺憾とし來年からは驛前の櫓に擴聲機を据へ付けると意氣込んでゐる

從軍記念品
平町の三氏へ

渡滿中町材木町二二緑川慶一、梅香町猪狩數三、二丁目小泉忠三氏は今回所屬第二十九聯隊第二中隊長より從軍記念品を贈られた

乘降平日の三倍
昨日一萬二千人を吞吐

昨四日(舊十五日)に於ける平驛最終務臨時列車の乘車人員は高萩行(零時十分)百五十八名、久ノ濱行(零時九分)千四十名、磐越線小川鄕行(零時二分)五百三十五名合計千七百三十三名でこれに依れば久ノ濱方面が首位を占めてゐるが同日一日中の乘降は乘車五千七百一人降車五千九百四十四人計一萬一千六百四十五人で平日の約三倍に上つてゐる

第二小學 出席率良好

平第二校では夏休出席日である去る十五日に於ける欠席兒童は二百八十六名でその理由を調査したが左の如く昨年より極めて好成績であつたと

	今年	昨年
病氣	六〇	七二
家事	四四	八一
旅行	八一	一三三
其他	一〇一	三九

依然女極樂
相變らぬ就職率

坑夫募集、匡救人夫採用其他で多忙の平職業紹介所では目下大童で之間の斡旋に努めて居るが同所最近の紹介成績を見ると、はけの良いのは勞働者が筆頭で、一番惡い俸給者は開所以來一名の就職もない、更に男女別に見ると男の就職難に反し二十才前後の女中など各方面から引張り凧で月給も六圓から一躍十圓に上り女極樂を現出して居る

美術の秋を飾る
磐中X會展覽會
部員何れも製作に精進

美術の秋展開に磐中X會では例年の如く來月十七日訓盲院に於て成績品展覽會を催すが毎回三百餘點の多きに達するので盛會を豫想されて居る、尙優秀なものには美友會賞X會賞十五を授與すると

盜伐者嚴罰
營林署目を光らす

小川川前方部特に江田林道附近の山林には檜、赤松など始め雜木が多く營林當局では常に鋭意之が利用厚生に腐心して居るが最近匡救工事や砂防工事などに出役する人夫中これらを盜伐し山林の態樣を害し被害少からぬものあるので今後嚴重取締をなすことになつた

會我氏 慰勞送別 發起人會

會我第一校長の退職により青沼平町長は明六日午後一時より町會議事堂に慰勞送別に關する發起人會を開き種々協議する外郡小學校長會でも來る十一日午後五時より送別會(場所未定)を開くと

山間部居住者 生活改善指導

上小川村戸渡部落官行事業所附近約卅五戸三百五十名中製炭五十名、木材運搬卅名でこれらの一ヶ月の純益は五六圓位に過ぎず今後冬期にかけて一層丹精を要する季節となるので營林署では部落民をして良習慣を馴致せしむる爲貯金を奬勵してゐるが毎月收益の一割位を貯金するものあるなど成績見るべきものあるが內村署長は昨四日來同方部へ出張冬期部落民の生計狀況などについて實地視察中で部落民の爲今後一層有利な對策が講ぜられるものと見られてゐる

驀進中の列車に
乘合自動車橫突
客夫妻全治三週間の怪我

昨四日午後十時十分頃内鄕村綴竹之内四一五薄葉安久氏方自動車部運轉手小野仲藏(三六)助手齊藤義雄(一八)兩名は乘合を運轉、平町から好間村に向つて疾走中同村好間磯井地内踏切で折柄進行して來た平驛十時十四分發貨物列車と橫突自動車は數間投げ飛ばされて大破し運轉手助手は幸ひ輕微な負傷で濟んだが乘客好間村上好間大畑一〇二隅田川炭鑛坑夫箱崎登(四三)氏妻シゲ子(四二)さん兩名は身體各所に何れも全治三週間の傷を負つた

故買犯へ判決。。。。 好間村大字北好間字向町田三八石森卯之吉(五五)が去る三月頃同村大字上好間大熊豊より約八回に亘り古鐵約八十五貫匁其他銅屑、砲金を故買した事件の公判は今五日午前九時から平區に於て中島裁判長係三堀檢事立會の下に開廷、求刑通り懲役五ヶ月

延長運轉協議。。。。 鐵道では今般湯本―平間運轉の蒸氣列車を四倉驛まで延長の打合せ會を七、八兩日平驛に於て開催すると

泥醉素見二人男
おつ取り刀で急行
鎌田で笑へぬ喜劇

酒亂文無しの闖入は遊廓にとつて大の禁物である――地獄の蓋も開いて氣分横溢解放の昨夜五色の巷での大殺陣。

×

呑ん平文無しと喧嘩好きで日頃から毛虫の様に嫌はれて居る鎌田の運轉手F公と仕立屋のY公、親の時より此の時だとばかり、ジュク柿嗅い息を芬々漂はせながら一人前に榮樓の門前に立つ。ご見た栗鼠の樣に素ばしこい小柄の番頭との間に『上げろ!』『駄目だョ!』の問答が續いた揚句、土足でグン〳〵上つていく豪勢振りに番頭君少なからずフンガイ、直に事の由を其筋に電話したので無爲に鐵腕を撫してゐた例の新選組がソレッ!とばかりおつ取り刀で自動車を乘りつけた時にはもや二人の色ギャングが立退いた後だつたので一同勇氣の發散場所に間誤つき『何んだ人殺しでもあつたんかと思つたら!』とスゴ〳〵と立去る後姿に秋の夜風がまつはつてた

五千兩を返せと
松竹俳優三津五郎訴へらる
十一日平支部で口頭辯論

平町鍛治町志賀延吾が東京松竹專屬興行部俳優阪東三津五郎事守田壽作を相手取り平支部に提起した貸金五千二百圓の請求訴訟の口頭辯論は來る十一日中島裁判長係りで開廷される

罰金五十圓を言渡された

古物商へ。。。お灸　鐵類を買受けそれを賣却しながら所定の帳簿に記入せぬ廉により今五日左の如く處罰された

△神谷村大字鎌田二面首(四五)は古物金條眼鏡一ヶで罰金三圓　△平町字四丁目二三會田右京(五六)は純金五千四百圓分で罰金二十圓　△平町字研町七折笠磯吉(三五)は古鐵屑約七貫目其他で罰金三圓　△内鄕村大字宮金坂宮島淸光(四〇)は古鐵屑五貫五百匁で罰金二十圓

。。。。平驛荷主懇談會　平驛主備貨物主任と荷主の懇談會は八日平驛樓上に開催する

磐崎武道大會。。。。　武德會磐崎分區主催の武道大會は今五日午前九時から小學校で開いた

井上氏上京　井上茂作氏は明六日午前零時五十四分平發準急で上京同日から開催の全國消防協會理事保安課長會議に出席する

。。。。豐間起債村會　豐間村では一日村會を開き匡救事業漁港船溜場修築費一萬三千七百圓起債外數件を附議した

只飲。　双葉郡川内村上川内萩野土工西内榮藏(三六)は昨四日午後十一時頃無一文で平町南町料理店芳本亭に登樓二圓三十錢の飲食をなして平署に突き出された

喧嘩。。。　赤井村赤井久保田喜久好長男香見鄕磯上義夫(二六)平窪村中平窪相田順平(三五)兩名は昨四日午後十時頃平驛前の櫓下で些細な事から口論の末喧嘩をして居るのを平署員に檢擧された

家出。。　双葉郡龍田村龜尻二〇木田良平(四六)は三日夜家出、今五日平署へ搜索方を願ひ出た

。。隔離。　豐間村沼之内農安積久藏(三六)は昨四日腸チブスと決定隔離された

埃の巷

曾ては某店のクィンと謳へられ孔雀の驕りを見せた事のある最近新築移轉した某カフェーの女給さんK子。チャンスの悲哀から太鼓の様に膨れ上つた六ヶ月の大腹を抱へては店へも出られずノーチップでこの暑さに十日以上錢湯にも行けぬのを氣の毒がつた朋輩から湯札一枚を貰ひ虎の子の樣にして帶に挾んで居たのを用便中落して終つたと、嘘の様な實際の話。◇平町花柳界の衰微は慶應の如く毎月の行司減少に加へ近に各料理店では客がはづんだ纏頭を藝者へは紙花で渡して居る程の窮迫に中々現金に引換へられず某樓れつ妓の如き積り積つて三百餘圓に達して居るのがあるとの事である

◎日本石油株式會社特約店
ライジングサン石油株式會社重油特約店
關彰商店平支店
本店 水戸線下館驛前 電話 六一番
茨城縣土浦町中宿(電話五五番)
營業種目
石油、揮發油、輕油、重油、モビール油、マシン油、機械油類、胡麻油、種油、植物油、コールタール、カーバイト、石炭、コークス、ストーブ
〔型錄進呈〕
支店所在地
茨城縣土浦町中宿(電話六五三)(電話八二四)
常磐線關本驛前(電話平潟五四)
常磐線四倉驛前(電話四八)
◇安全、便利、經濟のヌタヂリナ石油コンロ
◇完全燃燒のネンショーストーブ

內外建築材 建具材
磐城國平町(公園下)
入 阿部材木店
電話四九四番

父淑人儀病氣中の處藥石効無く昨四日午後八時四十分死去致し候に付此段謹告候也
追て葬儀は明六日午後一時出棺可致候
九月五日
石城郡錦村
男 瀧川淑夫
友人總代 金成通